

り、山由理といふは百合紅花者名山丹といふものは是也。百合ユリと云ひし事は日本紀に見えし所に據るに、高麗百濟等地方の呼びし所と見えたり。事記に註せる事名、サキといひし事の如き、古る事を得べき物名ひとり地方によりて異なるのみにあらず。古の同じからぬかくの如し、今に依りて其説をなし難き事也。

〔倭訓栄由編三十五〕ゆり 百合をよめり、花大に莖ほそくて、風にゆるもて名くる成べし。品類多

し。

〔藻鹽草〕百合

さゆりさゆりの花とも、さゆりばの花くさふかゆりり共云り萬、光草これをほたるの異名也、名といへるはいはれす、これはひかり草也。さゆり花ゆりもあはむとつくば山またまの、いそに、さゆりをよめり、くだら野にひめゆりをよめりまたさゆりばまの、いり江にも、わがせこが、やどのかきうちの、さゆりばな。萬 ゆり花新 さゆりば

〔大和本草〕百合 本草ニ百合ト云ヘルハ花白キヲ用ユ、日本ニ關東ユリ薩摩ユリナド云類也、藥ニ入ベシ。卷丹ハ百合ニ非ズ、藥ニ不可用、只食スベシ、百合ハ何レモ味苦シ、食スルニタヘズ、卷丹ハヲニユリト云味ヨシ、前ニシルセリ、百合ハ根ノ上莖ノ下ニ子生ズ、卷丹ハ葉間ニ實生ズ、二物ノ子生ズルコト不同。ヒメユリト云物アリ、山丹也、五月ニ花ヲ開ク消ヤスシ又ヒユリアリ、是モヒメユリノルイ也、花深紅色也、年々土ヲカヘテ改ウフベシ、不然バ消ヤスジムカシハ百合ノ品多ガラズ、近年世ニ其花ヲ賞ス、故其品ヤウヤク多シ、幾十種ト云事ヲシラズ、百種ニ及ブ、其花向天アリ、向地アリ、傍向フアリ、

〔大和本草〕五蔬卷丹 莖高クシテ黒ク葉セバク、葉間ニ子ヲ生ズ、夏秋紅黃花ヲヒラク、花ニ黒キ斑點アリ、子ヲ多クトリ、其マ、地ニマクベシ、又土ニヲサメ置ム、カゴヲ植ル如ク春ウフベシ、百合ハ白花ナリ、相似テ不同、百合ノ子ハ根下ニ生ズ、又梢ニモ子アリ、百合ハ味苦シ、卷丹ハ甘シ、果